

企業の皆様へ

「住まい」は、雨露しのげて、心身ともに健康で晴れやかに過ごすことができ、かつ安全であることが必要です。一生を過ごすことができる「家」を確保することは、老後の生活の安定条件の1つと言えます。それには、決して大きな家でなくとも良いのです。

苦しくとも、「若いうちに75㎡の家を建てること」を私達は提案します。そして、社員の方々の生涯設計のために、企業主の方々の応援を是非お願いしたいのです。

老後まで安心して暮らせる室内環境の家を建てるため、私たちは「住まいづくり教室」を行っています。

社員の方々がご自分の一生を見通してみる機会は、日々の生活・仕事の取り組みや思考態度にも変化を生み出すことと思います。

ぜひこの機会に一度、社員の方へお勧め下さい。

福利産業(株)(地域の材木店)
下関市長府港町 7-71

項目

①75㎡の家をお勧めする理由

②家を建てる時の注意事項、建築条件 ～家の性能が大切～

③企業様へご協力をお願い

④最後に



①75㎡の家をお勧めする理由

家を建てることのすすめ

- (1) 将来、年金生活ともなれば、毎月の家賃の支払いが家計にとって大きな負担となります。

例) 65歳以上 月々50,000円の家賃を85歳まで払い続けた場合

家賃¥50,000/月×12ヶ月×20年＝¥12,000,000

今日まで健康であっても、病気などで思いがけない出費もあると想定すべきです。病気になってから資金不足ということではどうにもなりません。もちろん、若い時から保険を活用するなど、貯蓄を考えておくことも必要です。



なぜ75㎡の家なのか

- (1) 家の広さが75㎡以上であれば、フラット35S等、金利の低い住宅ローンが利用可能です。また、税金(取得・登記)、火災保険の優遇が受けられますし、国交省等の補助金も受けられます。(条件あり)

(12,000千円～15,000千円の家とする)(75㎡≒22.7坪)

- (2) 75㎡の家で4～5人は生活できるものと考えます。

部屋の大きさにもよりますが、75㎡ほどであれば3LDKの家を建てることも可能です。

“1人1部屋”も良いかも知れませんが、それよりも家族が顔を合わせ、互いに助け合ったり譲り合ったりする生活は、家族が円満に暮らしていく環境をもたらしてくれます。「環境が人を育てる」という考え方も大切にしていきたいのです。

②家を建てる時の注意事項、建築条件 ～家の性能が大切～

- (1) **常に新鮮な空気が通う、空気質の家であること**
- (2) **冷房をかけなくとも湿度が70%未満の家であること**
(家の中での熱中症を防ぐために不可欠です)
- (3) **冷暖房費が少ししか掛からない家であること**
(上昇気流を活用した家をご検討下さい)
- (4) **シックハウス症候群の原因であるホルムアルデヒド等が、日本の基準値の0.08PPM以下に抑えられていること**
(公的機関による空気質の分析結果を受け取ること。家の3ヶ所で測定し、シックハウスで無いことの証明を受けて下さい)
- (5) **日本の風土(夏は高温多湿、冬は低温乾燥)や、その地域の自然環境、隣接家屋等を含むまわりの環境を考え、かつ自分の意見や知恵を出し合って間取り計画を行うこと**
(家は自然と共生するものです。「一生暮らせる家」(終の^{つい}す^{すみか})にするために、しっかりとお考え下さい)



③企業様へご協力をお願い

社員教育の際、社員の方に対して、一生の生活設計を想定する大切さをお話しされてみて下さい。今後どのような生活をしていくか、老後の生活までを想定してみることは、社員の方々にとって今の行動を変える指針となるのではと考えます。

また、ぜひ金融機関とタイアップして財形貯蓄の体制を整えてあげて下さい。財形貯蓄が少しでも貯まれば、たとえローンを組むとしても、借入金が少なくなり、返済も楽になります。

社員の方が少しでも安心した未来を描けるよう、ご協力をお願いいたします。



余談

家を建てた後、高額の中古車を買われる方もおられますが、私たちはまず一番に家のローンの返済を最優先して頂きたいと考えています。元本の返済が早ければ早い程、利息が大きく減少することは明らかです。

「^{つい}す^{すみか}の 栖」は、将来安心した生活を送るための大切な基盤です。ぜひ貯蓄に励み、堅実なライフプランを立てられることをお勧めください。

④最後に

「住まい」(住宅、家)とは

- (1) 「住まい」を建てる目的は何でしょうか。
- (2) その「住まい」とは何でしょうか。
- (3) まだ使用できる住まいを壊したりしています。なぜでしょう。

「住まい」の役割と背景

- 「住まい」は設計士が住むのではありません。ましてや工務店や大工さんが住むのでもありません。建て主さん自身とご家族が生活されるのです。よってご自身の生活をどのように過したいかを整理する必要があります。「住まい」についてははっきりと認識し、住まいは家族を育む一番身近な環境であり、その影響を受け続ける場所ですから、まずご夫婦で家についての共通認識をすり合わせをしておくことが大切です。
- 敷地にある自然の力を効果的に間取りに取入れる為に、太陽光線、風の方向、地下水、表水、廻りの隣家の将来を見越した判断も含めた環境調査が必要です。
- 古来住宅は「居は氣を移す」「人間形成の道場」といわれます。木材関係では「木材の腐らない家に住む人は、皆健康」と言われています。家造りは言い伝えの具現化と考えています。
- 健康で安全に暮らせる家
修理も少なく経費もかかりにくい家
自然と共生し、空気の質が良い家

これらを達成すべく「住まいづくり教室」を弊社で行っています。**無料**
「住まいの本質」をご理解された後に、住まいを計画される方が増えるよう願っています。
是非とも社員の方へ参加をお勧め下さい。



※「住まいづくり教室」を受講され、なおご希望の方に「一生暮らせる家」をお手伝いさせて頂いています。

福利産業株(地域の材木店)

〒752-0953 下関市長府港町 7-71

TEL 083-245-0181 FAX 083-245-3590

URL <http://www.shiawase-sumai.jp/>

会員：山口県木材協会、ホームスタディグループ(HSG)、通気断熱WB工法友の会、
全国木の語り部の会、森林ボランティア・ふくの森の会